



古来からの日本三霊山に数えられ、今もなお多くの人々に崇拜される霊峰白山。白山信仰の歴史や文化を考えるシンポジウム「白山文化を次の世代に残す 白山文化の宝庫岐阜 長滝・白山・高山の証」が、岐阜市明徳町の岐阜女子大学文化情報研究センターで行われた。特有の白山文化を守り、残していくためにできることは何か。提案者の声を紹介する。

「白山文化の宝庫 岐阜」シンポ

「人類の遺産」次世代へ

「全国に三千以上、県内にも多数の白山神社がある。九州から東北まで全国的な広がりをもった白山文化とは。」

若宮 畏敬や恐れを感じるエリアでなければ、白山信仰は発生しない。白山神は中部独特の地方の神にとどまらず、東北から九州まで広がった不思議な神。その広が

シンポジウム出席者

- ▽パネリスト
 白山長滝神社宮司・若宮多門さん(映像による参加)
 高山市教育長・森瀬一幸さん
 国重要文化財和田家館長・和田正人さん
- ▽司会
 岐阜女子大学教授・浅野弘光さん

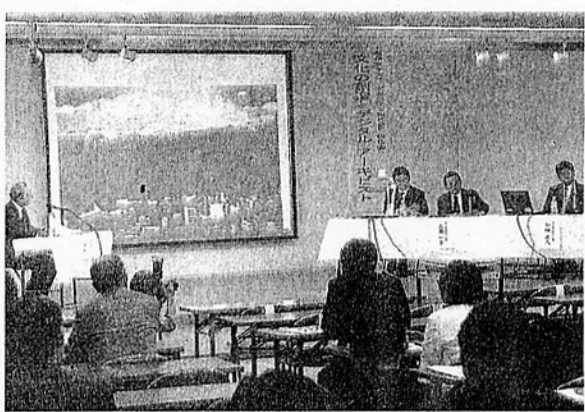
白山信仰、東北まで浸透

りの役割に修験者がいる。岩手県平泉は白山から七百キロ離れた位置にあるが、中尊寺の守護神として白山神が祭られている。白山神が東北でどのような経緯で祭られていったのか興味深い。中尊寺の僧侶の子は僧侶になるための儀式が七歳になったときに馬に乗って白山神に参りするという行事。白山神に参りつかないうち、中尊寺の僧侶になれなかった。中尊寺にとつて意味のある神だった。白山を閉山したのは越前の僧、泰澄大師。東北地方の古い天台宗寺院を開いたのも泰澄大師で、東北地方の古い白山神社の歴史には、泰澄大師がついてまわっている。

1 地元から考えたい白山信仰、白山文化とは。

森瀬 飛騨には白山神社は多い。県の一九八二(昭和五十七)年調べで、県内の白山神社四百七十七社のうち、九十八社が飛騨にある。飛騨に白山神社が多いのは、郡上長滝寺の荘園があり、これが白山神社、信仰の急激な広がりを見せたといえる。しかし、その後、白山への関心が薄まっていった。背景には、白では近すぎ、見えても、加賀、越前、郡上には馬場があったが、白川村にはなかったことも

暮らしの景色残すべき



白山文化の宝庫岐阜の魅力、次世代への継承について考えたシンポジウム＝岐阜市杉山町、岐阜女子大学文化情報研究センター

因する。やがて、金森長近が飛騨の征服に越前から入ってきたが、白山神社を敵対しなかった。高山山別院を持ってくると飛騨で浄土真宗の力が強くなっていった。中世には白山と天台密教が結びついていったが、現世の信心へと変わっていったと、浄土真宗が強くな

1 白山文化園の中の白川村とは
 和田 白川村の村民にとって白山は崇高の山。世界遺産の合掌造りにしても、白山のもの自然に育まれてきた文化。でもあまりにも白山に近すぎて、里から見える山頂は隠れている。加賀白山、越前白山、美濃白山と馬場から見える白山の呼び名はあるが、飛騨

白山とはあまり呼ばれない。しかし、白川郷そのものが白山の自然や文化の中にある。白川村では白山神社のイメージがあまりない。どぶろく祭りが行われるのも八幡神社。しかし、旧白川村もまた白川郷では、白山神社の数は多く、旧庄川は七神社中五社、白川では十二神社中四社が白山神社。昔はもっとあったようで、合記で少なくなつた。白山のふもとに白山神社が点在していたが、浄土真宗との兼ね合いで減つていったよう。

1 後世に白山文化のように残していくのか。
 和田 後世に伝えていくために、子供たちから白川村の良さを伝えていくのが自分の役割。白川村を愛し、誇りに思つて生活する子どもたちを育てることが文化を守っていくことになる。

森瀬 人は山を自指して歴史を歩いてきたと思う。そして、道のところどころに暮らしの足跡としてとがわれわれの使命。高山の町並みは昭和の初めと今もほとんど変わらない。その地域の人たちが自分たちが守らなければいけないという意識がないと景色は守っていかない。白山信仰は千三百年の歴史がある。文化を継承し、残していくためには、人の心に残る景色を残していくかなと、いけない。単なる物体ではなく、人が生きてきた暮らしの景色を残すことが人類の遺産になる。白山文化は世界に向けて発信できる遺産といえる。